

指針に基づく情報公開

労働安全衛生総合研究所では、個人情報保護法に基づく研究倫理指針を遵守し、下記の調査研究の対象となる方のお一人ずつへの説明が難しい場合、個別に同意を得る代わりに、研究の情報を公開することにより対象者のご理解を得て、情報を利用させていただいています。

研究成果は学会や学術誌等で発表されますが、お名前、ご住所などの情報が公表されることはありません。

ご自身または代諾者等が、情報をこの研究に使用してほしくないと思われる場合、研究計画の概要をご覧になりたい場合、その他研究に関することは「問い合わせ先」へご照会ください。ご照会された場合でも、なんら不利益を受けることはありません。

研究課題名（研究課題番号）	労災疾病臨床研究事業費補助金「放射線業務従事者の健康影響に関する疫学研究」（190702-01）
研究責任者（所属）	大久保利晃（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所）
研究対象	東電福島第一原発緊急作業従事者（以下「対象者」という）： 平成23年3月14日から同年12月16日までに東電福島第一原発内において緊急作業等に従事した者。
研究期間	対象者の生涯にわたる調査。（当面の計画として30年間） 第1期：平成26年度～平成31年度 第2期：令和元年度～令和5年度
研究の目的・意義	平成23年3月14日から同年12月16日までの間、約2万人の緊急作業従事者が従事し、そのうち、174人が通常作業の5年間の線量限度である100mSvを超えたが、この団体の大部分は、被ばく線量が100mSv未満の者が占めることから、信頼性の高い疫学調査が実施できれば、低線量被ばくによるリスクの有無、およびその機序に関する新知見が得られると期待される。また、従来の放射線被ばくによる健康リスクの研究は主として原爆被爆から得られた知見であり、放射線被ばくは一時被ばくによるものであった。本研究で対象とする団体の被ばくは、主として低線量率の継続的被ばくによるものであり、この研究結果により線量・線量率効果に関する新知見が得られることが期待できる。その結果は、より精緻な放射線防護基準の設定に資する可能性がある。 また本研究では、約2万人の緊急作業従事者の長期にわたる健康調査を継続するので、その結果は研究参加者の健康管理に役立つことが期待される。
研究方法	本研究の開始にあたって、厚生労働省の東電福島第一原発作業員の長期的健康管理システムの登録情報を使用するための申請を行い、対象者の情報を入手し、これらをセキュリティの高い研究用のデータベースサーバ（労働安全衛生総合研究所）に保管し、一元管理する。 そのうえで、全国77カ所の健診・医療機関の協力を得て、研究参加者の同意に基づいて、健康診断を実施するとともに疫学調査を行う。

	<p>健康診断時には、質問紙調査や面接調査を行い、緊急作業時の放射線被ばくに関する作業歴と健康影響に間接的に作用する交絡因子の解明につとめるため、既往歴、家族歴、職業歴、医療被ばく歴、生活歴など、直接本人からの情報入手以外には獲得できない情報を収集する。</p> <p>本研究のために組織された研究班は、研究代表者の元でそれぞれ臨床調査、白内障調査、甲状腺がん調査、死因・がん罹患調査、線量再評価、解析班に分かれて、個人を識別する情報と切り離されたデータにより、分担毎に専門的研究・解析行う。</p> <p>また、同意に基づいて健診時に採取した血液・尿の検体試料は、将来の研究に資するために、超低温冷凍庫において長期保管される。</p>
利用する情報の項目	厚生労働省が保有する東電福島第一原発作業員の長期健康管理システム登録情報のうち、住所等連絡先に係る個人識別情報（個人番号、中央登録番号、氏名、生年月日、住所、電話番号、所属企業等）および、線量情報、生体影響情報、被ばく作業関連情報等
提供を受ける組織	独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所
研究組織	<p>明石 真言（国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構）</p> <p>大石 和佳（公益財団法人 放射線影響研究所）</p> <p>大神 明（産業医科大学産業生態科学研究所）</p> <p>小笹 晃太郎（公益財団法人 放射線影響研究所）</p> <p>喜多村 紘子（公益財団法人 放射線影響研究所）</p> <p>栗原 治（国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所）</p> <p>佐々木 洋（金沢医科大学）</p> <p>数藤 由美子（国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所）</p> <p>祖父江 友孝（大阪大学大学院医学系研究科）</p> <p>谷口 信行（自治医科大学）</p> <p>朝長健太（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所）</p> <p>廣 尚典（産業医科大学 産業生態科学研究所）</p> <p>星 北斗（公益財団法人 星総合病院）</p> <p>宮川 めぐみ（医療法人誠医会 宮川病院/国家公務員共済組合 連合会虎の門病院）</p> <p>百瀬 琢麿（国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構 バックエンド研究開発部門 核燃料サイクル工学研究所）</p> <p>吉永 信治（広島大学 原爆放射線医科学研究所）</p>
個人情報の取り扱い	<p>本研究で得られたデータを健診機関や分担研究班に配布する場合は、デジタル証明書がインストールされたPC上で扱います。</p> <p>電子情報については、施錠可能な部屋に設置された専用サーバに保存し、パスワードを設定し許可された者のみが操作します。情報は原則として研究期間（当面の計画として30年間）が終了するまで保存します。保管された情報は、安衛研で匿名化のデータ処理をしたうえで、安衛研のファイル送受信システムを通じて各分担研究班へ提供されますが、連結のための対応表は提供されず、安衛研で厳重に保管します。</p>

